



# Integrated Report 2024

国内最大級のクエン酸メーカー  
**九州化工株式会社**

# Contents



## トップメッセージ

企業理念  
当社の成り立ち  
概要



## ESG情報

社会貢献  
人材戦略



## 事業内容

クエン酸事業  
環境事業



## 会社情報

役員紹介  
昭和グループ



## 財務情報

重要指標  
ビジョン

# 企業理念



社是

## 「夢と情熱」

常に夢を持ち、理想をかけた情熱を傾け、その実現を目指す。

## 「実践と行動」

実践と行動を起こすことにより、お客様及び社会に貢献する。

- 地球に根差した活動を拡げ、  
人と環境にやさしい企業を目指します。



## 当社の成り立ち

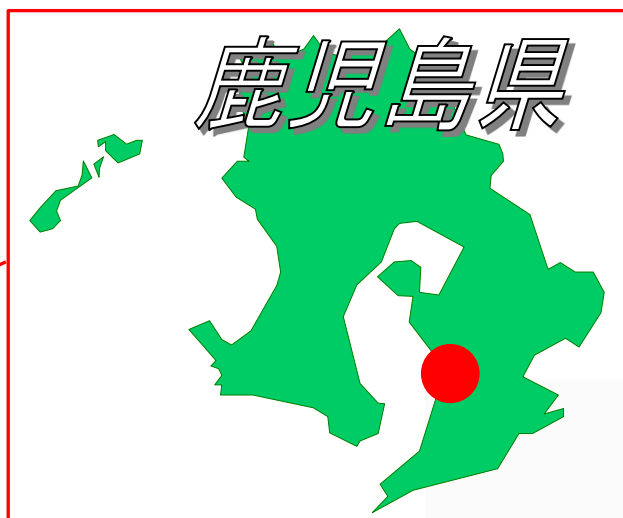
当社は昭和35年、さつまいも澱粉粕を原料としたクエン酸製造を目的として、有機酸の総合メーカー昭和化工株式会社(本社大阪市)が中心となり、地元資本の参加も得て設立されました。鹿児島県工業試験場(現在の鹿児島県工業技術センター)が開発した固形培養方式の発酵法によるクエン酸製造技術と、昭和化工株式会社の精製技術のコラボレーションにより生まれた工場です。

- 設立以来、このユニークなクエン酸製造技術の完成と、設備の近代化による生産性の向上に専念してきました。既に久しくわが国最大(発酵からの一環生産は唯一)のクエン酸メーカーとして、今日に至っています。
- また、その間澱粉粕及び工場廃水の処理等を通じて、地域のさつまいも澱粉工場や焼酎会社、畜産農家などとの緊密な協力関係を築き、地域振興と環境改善にも少なからず貢献しております。
- 今後も長年にわたり蓄積してきたバイオテクノロジーを経営の基軸に据えて、その外延を一層拡大強化するとともに、新しい技術の開拓にも力を注ぎ、社会のニーズに合った商品を提案していきたいと考えています。更に広く人材を育てて、全社員の情熱と英知を結集し、企業としての社会的責任を全うしていく所存です。

# 地域特性

国内唯一、クエン酸を発酵  
から一貫製造して64年

- 当社の位置する鹿児島県は広大なシラス台地を有しており、古くからさつまいもの全国有数の産地です。さらにそれを原料とした二次産業として、さつまいも澱粉の製造が盛んにおこなわれてきました。
- 澱粉製造では副産物として大量の澱粉粕が産出されます。当時は澱粉粕の活用方法が無く、処分に苦慮していました。
- そこで産学官連携で取り組み開発された有効活用法が、澱粉粕を原料とするクエン酸発酵でした。
- この発酵技術と昭和化工株式会社の精製技術が結び付き、産業として成立することで、昭和35年当社が設立されました。当時からのコア技術を連綿と受け継ぎながら、さらに磨き続けて今年で64年になります。



温暖な気候



豊かな農作物



# 歴史

設立以来、本業のクエン酸製造をコア技術として、クエン酸化合物の大量生産に手を広げました。その中で培った排水処理技術を活用し、廃棄物処理業、地域の排水処理コンサルタントを開始し、地域産業とより密接な関係を築いています。

昨今は各種認証取得、食品受託加工等に注力してきました。

■ 2022年



- 1960年 9月 設立
- 1961年 クエン酸生産開始
- 1963年 パウダー（破砕品）生産開始
- 1965年 クエン酸三ナトリウム生産開始
- 1972年 クエン酸三ナトリウム工場新設
- 1982年 クエン酸三ナトリウム（無水）生産開始
- 1986年 クエン酸モノナトリウム生産開始
- 1990年 焼酎廃液処理業 開始
- 1995年 廃水処理コンサルティング事業開始
- 2001年 発酵酸味液生産開始
- 2004年 ISO9001認証取得
- 2012年 ISO14001認証取得
- 2014年 ISO22000認証取得
- 2015年 液体発酵工場 新設
- 2018年 ハラル認証取得
- 2019年 FSSC22000認証取得
- 2020年 ISO45001認証取得
- 2022年4月 昭和化工の完全子会社となる

# 地域振興と環境改善

- クエン酸発酵によるさつまいも澱粉粕の処理、工場廃水処理コンサルティングを通じ、地域のさつまいも澱粉工場や焼酎会社、畜産農家などと緊密な協力関係を築き、地域振興と環境改善に貢献しています。当社の事業活動そのものが社会貢献につながると確信しています。
- 今後も長年にわたり蓄積してきたバイオテクノロジーを経営の基軸に据えて、その外延を一層拡大強化するとともに、新しい技術の開拓にも力を注ぎ、社会のニーズに合った商品を提案していきます。更に広く人材を育て、全社員の情熱と英知を結集し、企業としての社会的責任を果たしていきます。



# 顧客満足と認証取得

- 近年お客様の要望は多様化、複雑化しております。同時に原料メーカーである当社への要望、製品の規格要求値などのハードルも上がってきています。当社は国産メーカーとしての視点及び責任感から、これらの課題に積極的に取り組み、顧客満足度の向上のために努力しております。
- 具体的にはISO9001、14001をはじめ、FSSC22000といった品質、食品安全に関する認証取得を通して、常に自社の管理を振り返り、自発的な品質改善と、お客様に安心してお使いいただける製品を創り出す仕組みを取り入れています。
- ステークホルダーとして社員全員の幸せを追求し、長く働いてもらうため、福利厚生面で常に見直しを行っています。労働条件の健全性、子育て支援等を充実させ、ホワイト企業認証などを積極的に取得しています。



ホワイト企業認証  
ゴールド



# 事業内容



- クエン酸類
- 環境事業

# 弊社の製品 <クエン酸類>

主要製品であるクエン酸、クエン酸塩類は、主に食品添加物グレードとして生産販売しています。クエン酸は国内では唯一発酵から一貫生産している工場で、規模としても国内最大級です。工場は、ISO9000、FSSC22000等の認証を取得し、食の安全安心に役立てています。一方、国産へのこだわり、自然食品へのニーズに応えるため、地元鹿児島県産のさつまいもを起源とした「純国産クエン酸」、九州化工の独特な発酵スタイルから生み出されたオリジナル製品「発酵酸味液」を提供し、好評を得ています。ユニークな製品であると同時に、原料であるさつまいも澱粉粕は、地域特有の産業である澱粉製造の副産物であり、クエン酸の原料として再利用することで、廃棄物の削減にも寄与しています。



食品添加物



食品



その他



■ クエン酸



■ クエン酸ナトリウム



■ 発酵酸味液

■ 発酵食品素材



■ 飼料プレミックス

■ クエンサンC

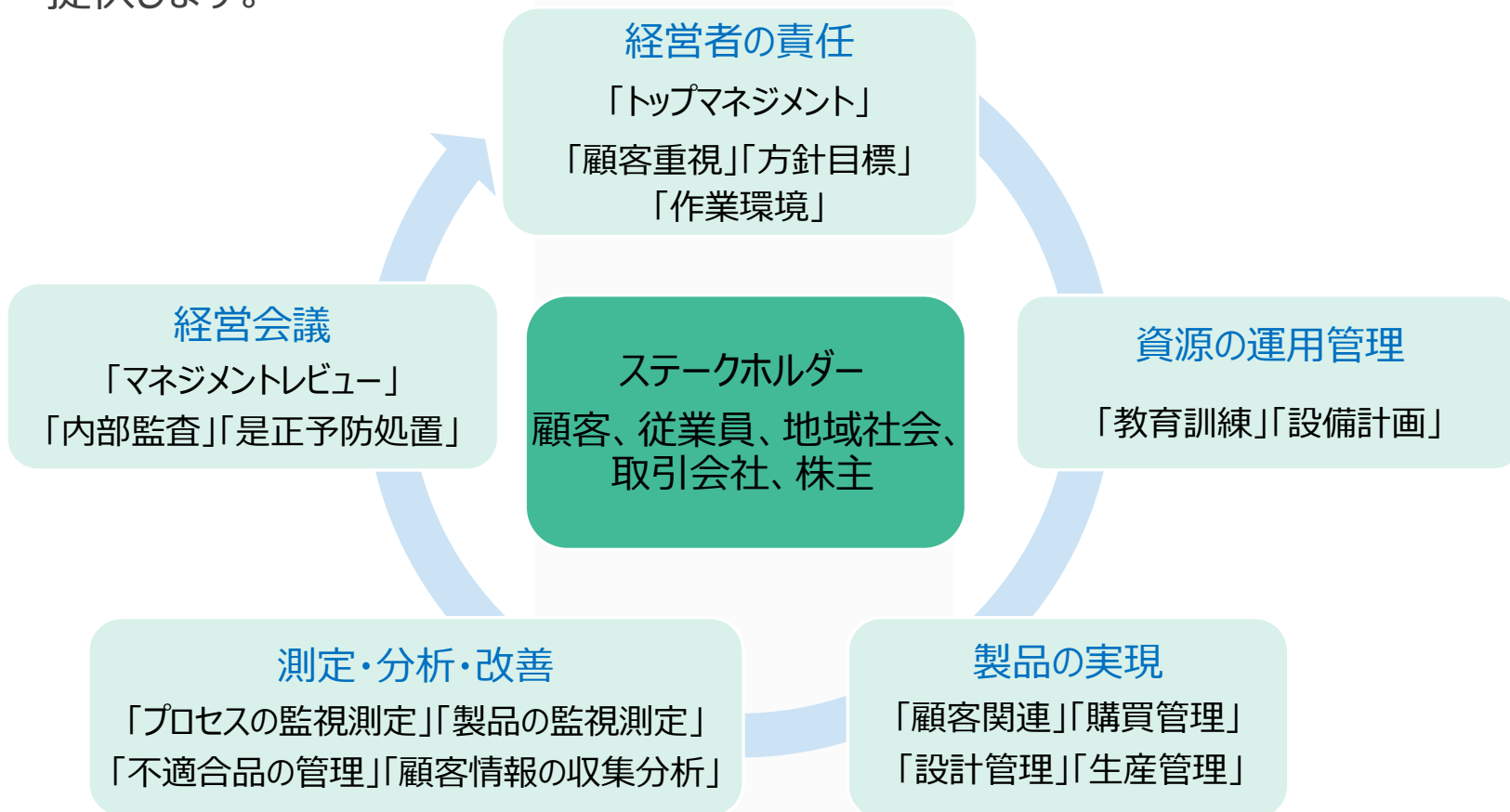
当社の主要生産品です。  
食品の酸味料、pH調整剤として、菓子類、飲料他幅広くお使いいただいています。

さつまいもを主原料とした発酵によってできたクエン酸を、そのまま食品に加工したものです。

有機酸のノウハウを活かした畜産用飼料、工業用途のクエン酸塩類、コンシューマー向け商品など取り揃えています。

# 弊社の製品とサービス <クエン酸> 特徴

- 品質マネジメントシステムを積極的に取り入れ、顧客を含む利害関係者に安心を提供します。



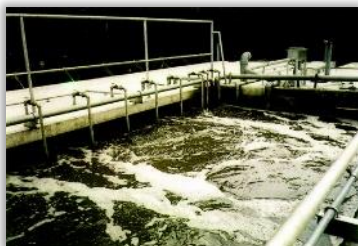
# 弊社の製品とサービス <環境事業>

当社所在地である鹿児島は、古くから農業が盛んに行われており、それに付随した食品工場、畜産業が集中しております。急速な産業の発展は、時に環境汚染の原因として社会問題となっておりますが、地域を挙げた対策努力の結果、改善されてきております。これら環境課題は排出側の責任であり、対策を継続維持する義務があります。当社は自社排水処理で培った技術を活用し、地域産業の環境保全にも貢献していきます。



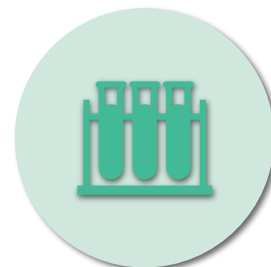
## 排水処理メンテナンス

当社は有機酸事業で培った廃水処理技術を基に、地域の澱粉工場、畜産農場、食品工場等の廃水処理施設の保守管理を行い、環境負荷の低減並びに水資源の保守に貢献しております。



## 産業廃棄物処理

産業廃棄物処理業者として、焼酎廃液や汚泥など、地域の廃棄物を受入れ、生物処理により浄化をおこなっています。生物処理ではメタンガスが発生しますが、自社ボイラーで燃料として活用することで重油等化石燃料の使用量を抑え、カーボンニュートラルへの一助として活動もしております。



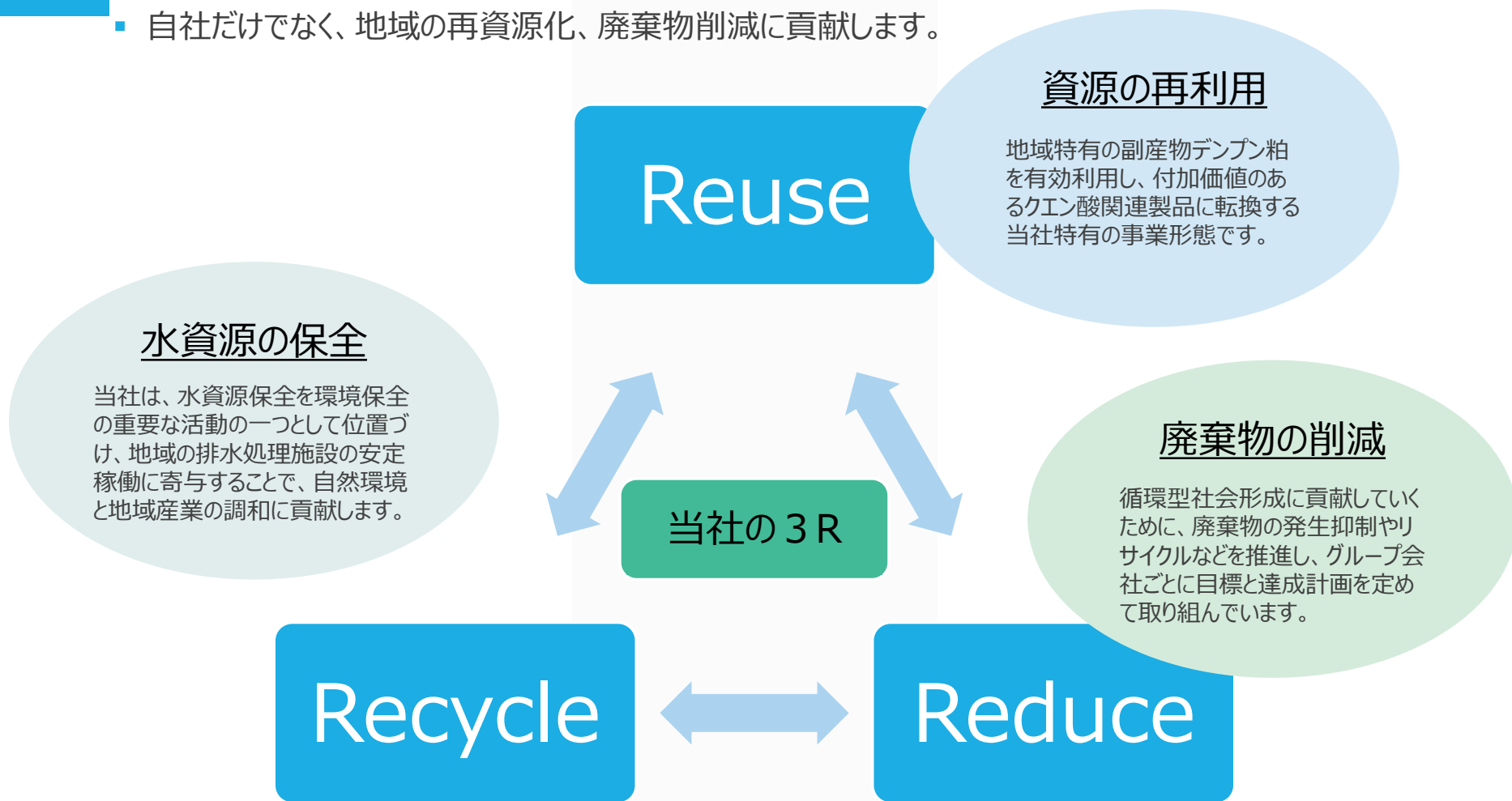
## 計量証明事業

自社排水処理の管理や工場排水のモニタリングに始まり、産業廃棄物浄化後の放流のコンプライアンスを確保するために、環境計量証明事業の認可を受けています。また自社活動により培った分析技術を活用し、他社工場や畜産プラントの放流水の水質分析を受託しております。

市内の地下水や河川水といった環境調査にも協力し、地域の環境情報の取得にも役立っています。

# 弊社の製品とサービス <環境事業>

- 自社だけでなく、地域の再資源化、廃棄物削減に貢献します。





# 財務情報



- 財務ハイライト
- 事業別ビジョン

# 財務ハイライト

## ■ 成長性



## ◆ 売上高

- 原料価格・資材等の高騰により、2022/3期、特に2023/3期は思うように価格転嫁が出来なかった。
- 2024/3期に価格改定を実施。
- 見直しを行った事により、2023/3期からは売上金額の改善に繋がられた。
- 価格転嫁を実施する事で、ユーザー離れに繋がる事も懸念されるため、難しい選択を余儀なくされた。

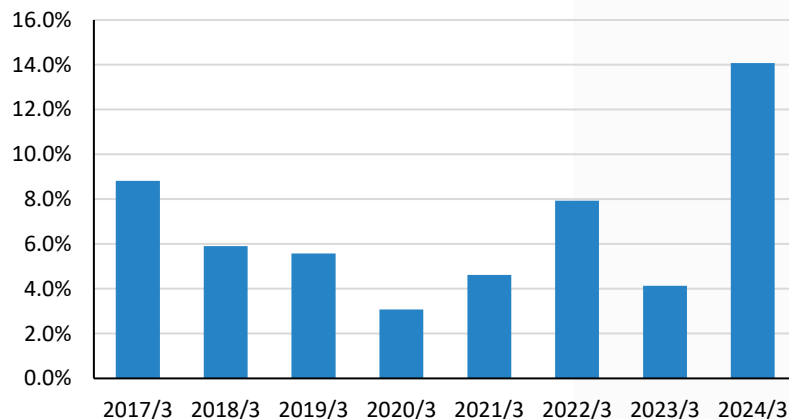
## ◆ 当期純利益

- 売上高同様、原料価格・資材等の高騰により、2022/3期から思うように価格転嫁が出来なかったが、2023/3期、2024/3期と価格の見直しを実施。
- 見直しを行った事により、2023/3期は原料・資材高騰に値上げが追いつかなかったが2024/3期は全体的な利益改善に繋がられた。

# 財務ハイライト

## ■ 収益性

### 売上高経常利益率

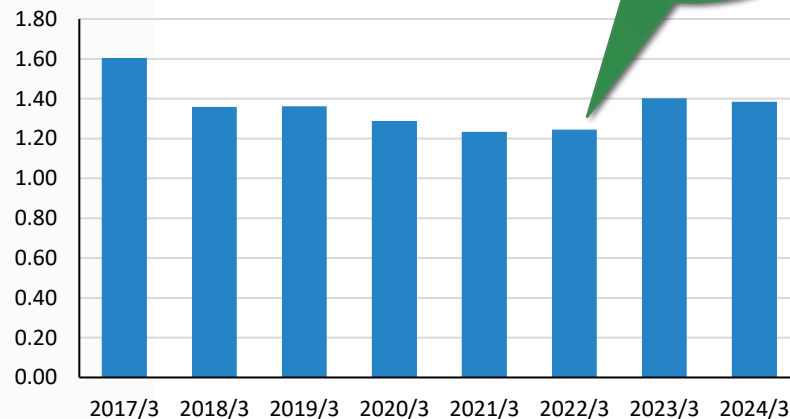


### ◆ 売上高経常利益率

- 原料価格・資材等の高騰により、特に2023/3期は高騰分を価格改定出来ず収益悪化となったが、2024/3期は価格改定により過去最高の利益を確保できた。

### 総資本回転率

単位:回転



2021/3期、  
2022/3期は  
同じ推移

### ◆ 総資本回転率

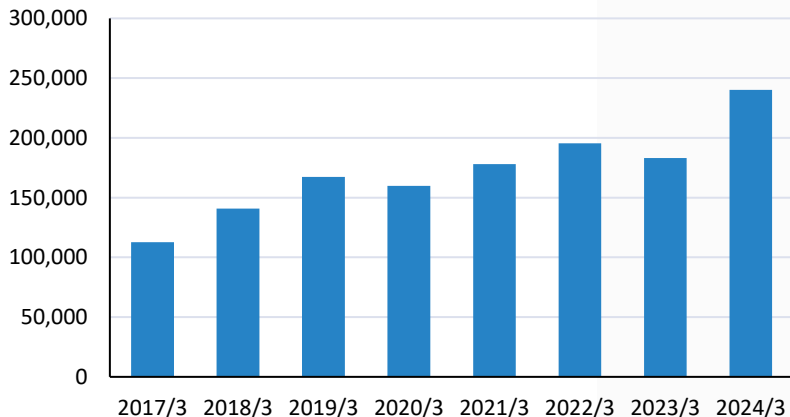
- 2023/3、2024/3は回転率はほぼ同じ。
- 売上高・総資本がほぼ同じ状況、2023/3期は借入金が大  
幅に増加したが、2024/3期は借入金減少した事と、利益  
確保が大きな要因。

# 財務ハイライト

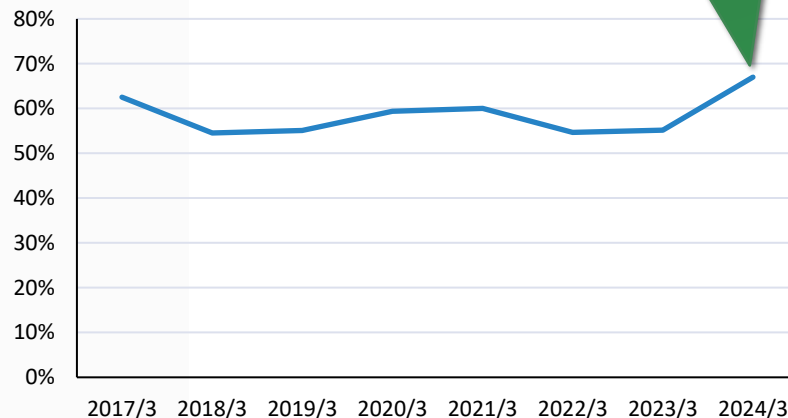
## ■ 安全性

### 現金及び預金

単位:千円



### 自己資本率



毎年60%前後確保、特に2024/3期は価格改定により大幅改善、資産増・利益率改善により安全性を維持

## ◆ 預金

- 毎年継続的に預金増。
- 2023/3期は価格改定が追い付かず預金が減少する事となったが、2024/3期は利益確保が出来た関係で前期分の挽回に繋がった。

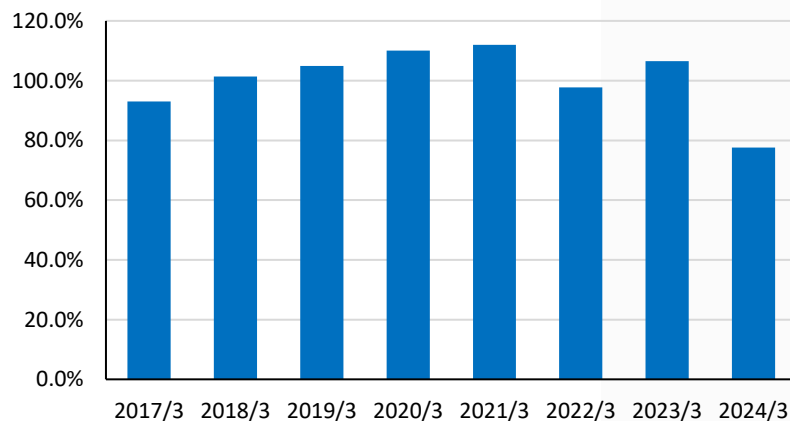
## ◆ 自己資本率

- 2024/3期は価格改定が一段落し収益改善につながった関係で借入金の削減が出来た。
- その結果利益確保に繋がり、自己資本率の増になった。

# 財務ハイライト

## 生産性

### 労働分配率

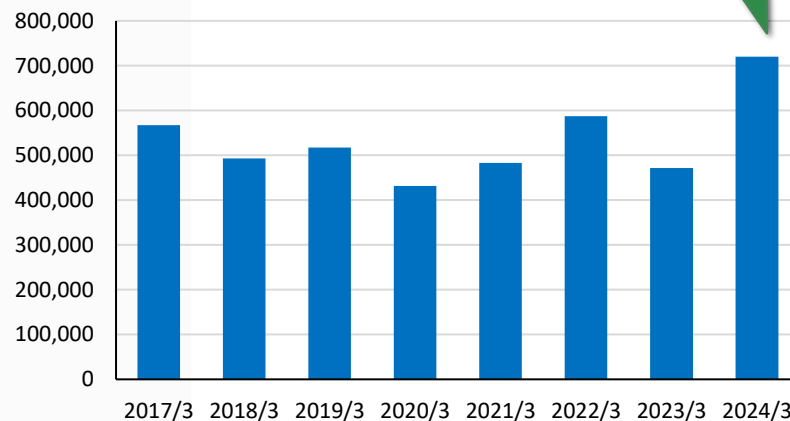


### ◆ 労働分配率

- 過去は分配率が高い傾向にあった、主にクエン酸部門での利益率が低かった事が要因となっていた。
- 2024/3期は利益改善が出来た関係で分配率の見直しに繋がった。

### 労働生産性

単位:円



### ◆ 労働生産性

- 2024/3期は新規品のOEMを始めた関係で新たに人員を増員した。1年目から利益確保には繋がっていないが、全体的な価格改定により1人当たりの労働生産性の増に繋がった。



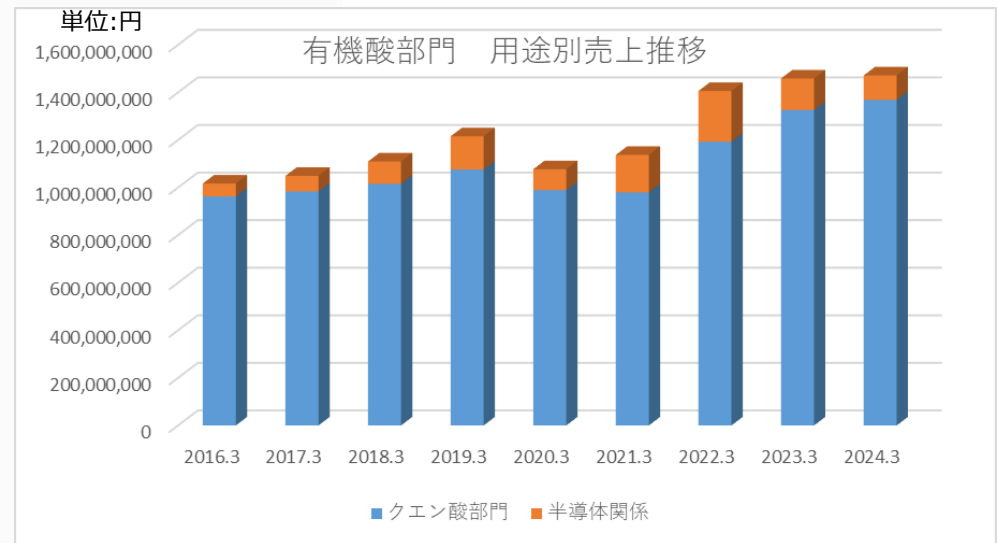
# 財務情報

単位：千円

会計年度	2017/3	2018/3	2019/3	2020/3	2021/3	2022/3	2023/3	2024/3
売上高	1,120,902	1,164,774	1,236,885	1,121,749	1,117,903	1,376,872	1,600,386	1,592,277
売上総利益	302,829	275,166	294,313	237,495	237,094	292,245	234,506	405,956
営業利益	88,546	59,350	58,654	27,732	40,345	96,834	53,152	199,195
経常利益	98,875	68,730	68,971	34,512	51,708	109,234	66,074	224,059
税引前利益	86,635	46,813	46,856	21,470	39,599	87,542	53,233	207,139
当期純利益	54,664	30,674	32,984	16,813	26,117	61,569	38,143	141,514
資本的支出	92,682	48,209	58,627	70,625	88,200	64,686	34,817	31,932
減価償却費	30,875	37,419	35,632	37,074	38,812	44,050	47,555	42,412
現金及び預金	112,719	140,767	167,424	159,900	177,955	195,436	183,107	240,102
純資産	436,962	467,636	500,620	517,433	543,550	605,119	629,323	770,836
有利子負債	74,000	180,000	168,000	215,000	208,000	209,000	350,000	105,000
資本合計	698,579	857,572	908,652	871,380	906,027	1,106,474	1,141,545	1,150,551

# 事業別ビジョン クエン酸

- 主たる事業であるクエン酸は、市場ステージとしてはすでに成熟期に入っているようですが、現在でも年率3%以上の需要の伸びを示しています。クエン酸市場をグローバルにとらえると、中国のメーカーが世界の60%の生産能力を有し、日本国内でも大きなシェアを有しています。昨年度は感染症の終息宣言により需要が戻り製品のひっ迫する事態も発生しました。このような大きな変動の波の中で、当社は自社の在庫も活用して緩衝材的な役割を果たし、お客様に製品を安定的に供給することができています。
- 今後も自社オリジナル品、きめ細かいサービス、品質保証体制といった優位点を生かして、お客様のニーズに合わせた製品を安定的に供給していきます。



## ■ 新たな生産品目への取り組み

- 今後は中国や東南アジア等でも人件費、輸送コストも高騰しているため、国内メーカーとしての競争力、需要も上がってくると予想されます。私たちは国産にこだわり、長年培ったクエン酸製造の技術を基に新たな品目の製造に挑戦します。

## ■ さらなる技術研鑽、高度化への挑戦

- 半導体製造時の洗浄液としてクエン酸が使用され、半導体自体の小型化、精密化が進み、洗浄液の品質にもかなり高度なスペックが要求されるようになってきました。これまで蓄積してきたクエン酸製造の技術を基に、半導体製造時の洗浄に使用される低メタルグレードのクエン酸の技術確立に挑戦します。
- 2023.3月期は世界的な情勢不安のあおりで半導体エレクトロニクス用途での売上が減少しましたが、2024.3月期は徐々に回復の兆しが見られました。今後発展する分野として注力していきます。

# 事業別ビジョン 食品、工業用

- 九州化工オリジナル製品の発酵酸味液に力を入れつつ、今後はそこから派生した食品加工受託やオリジナル製品の幅を広げていきます。



新 食品加工工場



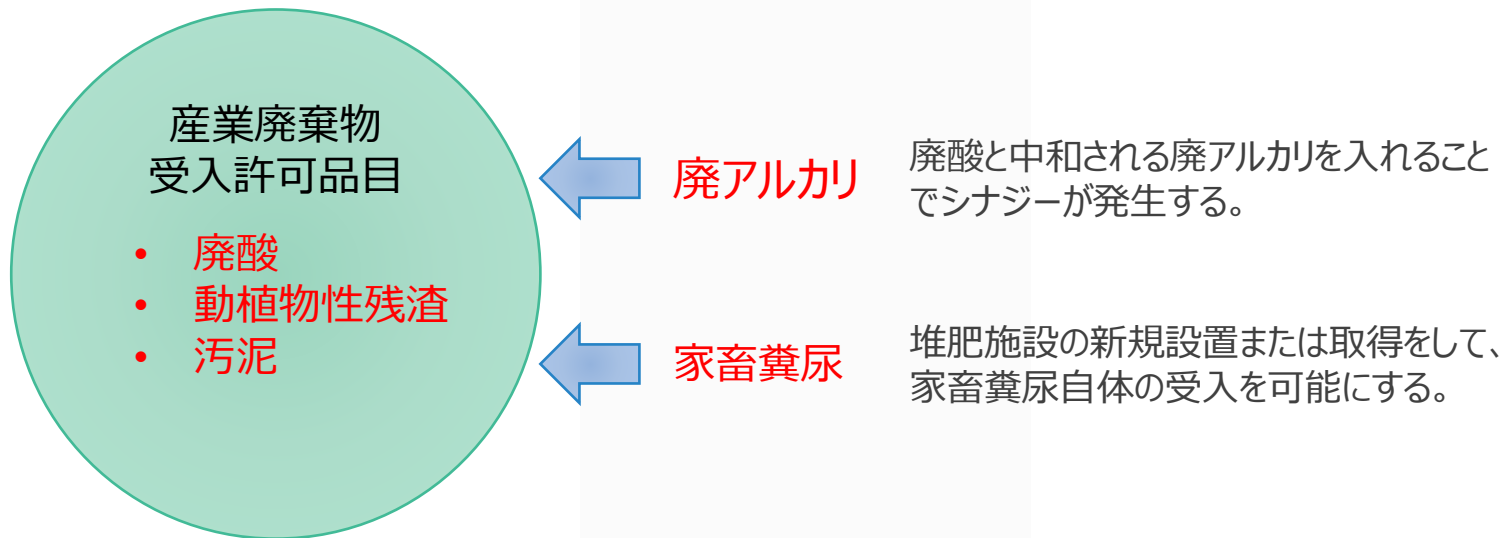
イオン交換樹脂塔

**Kyushu Kako Corporation**  
鹿児島産  
**発酵酸味液**

- 食品添加物および食品工場として、お客様からの要望に沿った小分け製品、OEM製品の受託にも力を入れていきます。
- 高品質、高純度の要望にお応えすべく、製造工程の改善、更新して品質を上げていきます。また評価するための超微量の成分を調べるための機器、分析技術も磨いていきます。

# 事業別ビジョン 環境事業

地域の澱粉工場、畜産農場、食品加工工場とのこれまでのつながりを大切にしながら、産業廃棄物処理業として新たな取り扱い品目を模索し、産業廃棄物の削減により環境負荷の低減につなげます。



# ESG



- 福利厚生、人材戦略
- 地域貢献
- サステイナブル



# 人材戦略

## 働き手とともに成長する

**わが国では労働人口の減少、高齢化といった課題が目前に迫ってきております。労働力の確保のためにも、従業員の働きやすさ、作業環境、やりがいに目を向け、長く働きたい会社を目指します。**

- 従業員が健康に長く働き続けられるよう、定期健診、特殊健康診断、ストレスチェックを実施。
- ホワイト企業、健康経営優良法人などの認証取得により、会社の体質をアピールすることで、周囲やステークホルダーからの評価を向上させ、就職活動で選ばれる企業を目指しています。
- 育児休暇は対象者の取得率50%、男性従業員の育児休暇、時短も推進しており、対象者の50%がこの制度を利用しています。子育て中の作業員に対して運動会や授業参観などの学校行事に対する特別休暇制度を新たに設け、支援していく体制を強化しました。
- 人材に関しては、6か月間の新人教育プログラム、品質向上や安全作業に関する定期的なミーティング、外部講習などを実施し、社員の基礎能力と意識の向上に寄与しています。社内資格、公的資格を問わず、個人の資格取得にも積極的に援助を行う制度があります。
- ワークライフバランスの最適化や教育の充実により、従業員満足度を向上させ、長く働きたい会社、しいては他人に勧めたい会社を目指していきます。今後も企業価値を上げるべく、常に福利厚生制度などを見直ししていきます。



# 研修制度

働き手とともに成長する

## 次世代育成のための取り組み

- 昭和グループ研修をはじめ、職場での実務体験を基本とした新入社員教育、部内教育、Webでの外部セミナーの受講による階層別教育を活用しながら積極的に教育の機会を提供します。
- 専門性の高い人材を積極的に採用し新製品開発などの分野に挑戦します。
- グループ共通の教育システム、資格取得の支援、取得後の手当制度を採用しています。



# 労働安全への取り組み

ISO45001に基づく労働安全の仕組みを活用し、労働安全に努めています。

- 定期的な消防訓練、薬品等の漏洩対策訓練をおこなっているほか、全従業員を対象とした啓発講習会なども実施しています。



- 社内で利用することの多いフォークリフトは、取り扱う作業者のみでなく、全従業員に対して行い、意識の向上を図っています。



# 地域・環境活動

近隣の学校行事や部活動への寄付、花火大会への協賛などにより、地域の活性化に取り組んでいます。

- 地域主催行事への参加



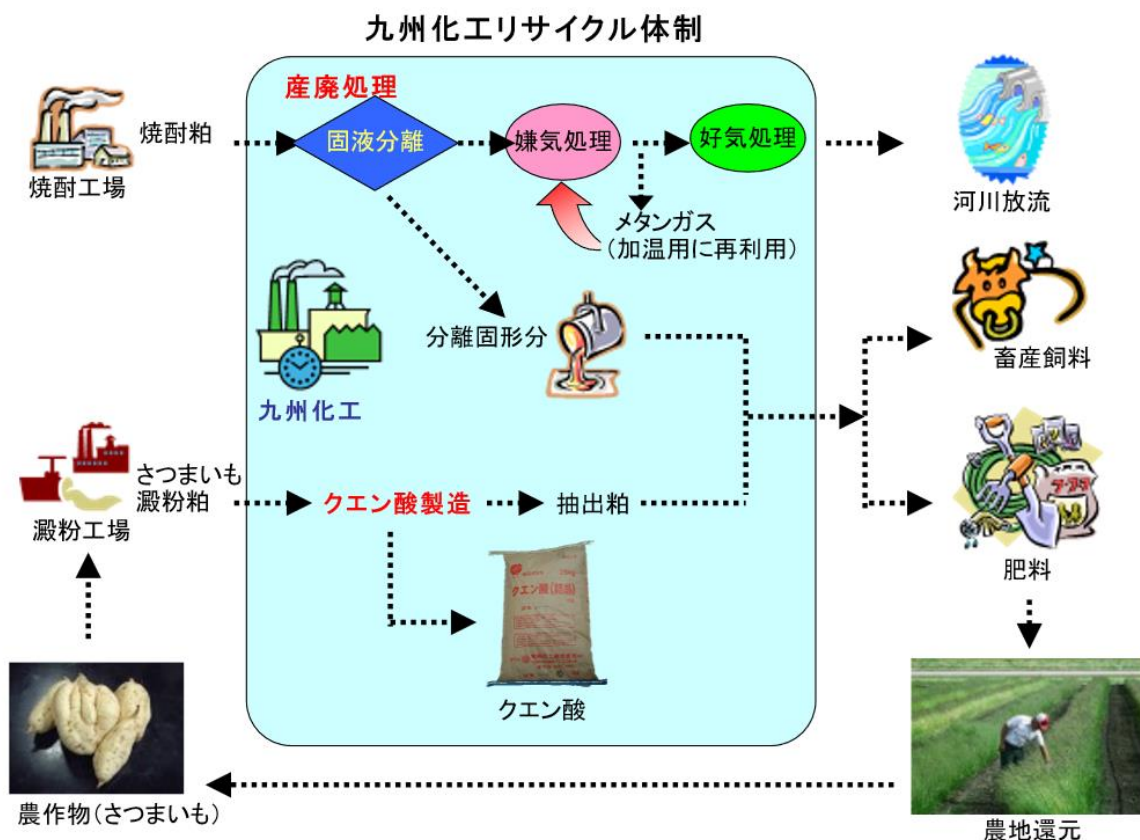
- 地域清掃作業への協力





# サステイナブル 持続可能な社会の実現に向けて

## 九州化工のリサイクルシステム



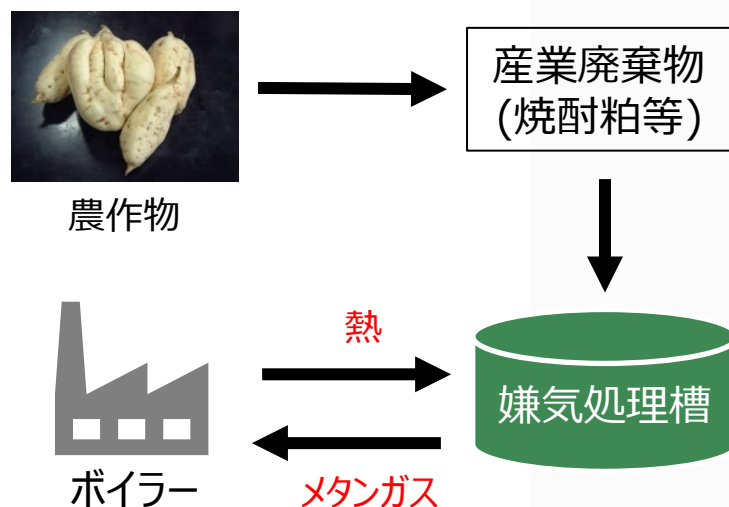
- 当社は地域特有の廃棄物を有価物と捉えて再利用することで、地域のリサイクル体制の中核を担っています。
- 焼酎粕やさつまいも澱粉粕を受け入れて、浄化の際のエネルギー生成、主力製品であるクエン酸に転用し、さらに当社から排出される粕類は、地域の農家への畜産飼料や肥料として活用されています。



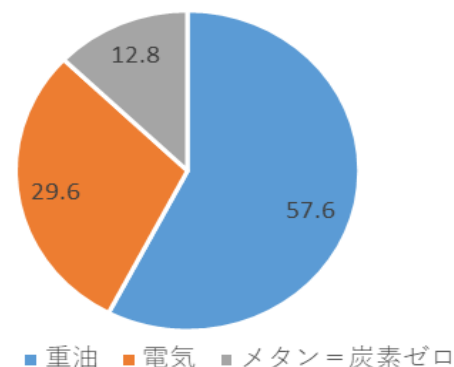
# 脱炭素社会への動き

- 当社環境事業にて受け入れる産業廃棄物は、焼酎粕など植物由来原料です。これを浄化施設で処理することでメタンガスが生成します。メタンガスを燃焼することで、熱が生まれ、自社の廃棄物処理施設の熱源としてリサイクルしています。これにより本来使用されるべき重油、電気等のエネルギーを削減しています。
- メタンガス（＝炭素発生ゼロ）により削減される重油由来二酸化炭素は、年間430 t に上ります。これは当社での二酸化炭素発生量の13.7%にあたります。今後はメタンからの炭素ゼロ熱で、その他廃棄物の乾燥減量化にも取り組んでいきます。
- 今年度は環境に配慮し、現在使用中の重油ボイラーをガスボイラーへ入替えを実施します。

入替えを行う事により15%の二酸化炭素削減になります。



当社排出二酸化炭素の割合％  
(令和5年4月～令和6年3月)



# SDGs への取り組み



7 エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに



13 気候変動に  
具体的な対策を

## ◆ エネルギー管理の強化、効率化による使用量の削減

- 工場毎の電気使用量の監視や電力デマンド管理により、電気使用量の削減を進めます。
- 省エネ機器の導入を進め効率化による省エネに取り組んでいます。



11 住み続けられる  
まちづくりを



14 海の豊かさを  
守ろう



15 陸の豊かさも  
守ろう

## ◆ 産業廃棄物の削減

- 廃水処理プラント事業や産業廃棄物処理事業を軸にした環境事業により、地域の産業廃棄物の削減に取り組んでいます。



3 すべての人に  
健康と福祉を



8 働きがいも  
経済成長も



9 産業と技術革新の  
基盤をつくらう

## ◆ 自動化、省力化

- 自動化、省力化設備の導入を進め、働く人の負担を減らし効率的な作業環境の構築を進めます。



2 飢餓を  
ゼロに

## ◆ 安全安心な製品の製造

- FSSC22000を基に常に食の安全安心を心掛けた製品をサプライチェーンに提供します。また、国産原料にこだわった純国産クエン酸の製造により、国内で安心安全な供給網を確保します。



10 人や国の不平等  
をなくそう



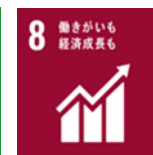
17 パートナーシップで  
目標を達成しよう

## ◆ パートナーシップ構築宣言 サプライチェーン全体の共存共栄と規模・系列等を超えた新たな連携

- 直接の取引先を通じてその先の取引先に働きかけることにより、サプライチェーン全体での付加価値向上に取り組むとともに、既存の取引関係や企業規模等を超えた連携により、取引先との共存共栄の構築を目指します。



3 すべての人に  
健康と福祉を



8 働きがいも  
経済成長も



9 産業と技術革新の  
基盤をつくらう

## ◆ 「振興基準」の遵守

- 親事業者と下請事業者との望ましい取引慣行を遵守し、取引先とのパートナーシップ構築の妨げとなる取引慣行や商慣行の是正に積極的に取り組みます。

# 経営基盤



- 経営者概要
- 関連会社

# 経営基盤

小椋 邦彦	小椋 浩之介	山中 康主
代表取締役会長(現任) 令和 2年 5月	平成22年 6月 監査役 令和 2年 5月 代表取締役社 長(現任)	令和3年5月 取締役 (現任)
経営者としての豊富な経験と高い 識見を活かし、当社の継続的発 展と取締役会の意思決定機能 や監督機能の強化が期待でき ると考え選任しております。	経営者としての豊富な経験と高 い識見を活かし、当社の継続的 発展と取締役会の意思決定機 能や監督機能の強化が期待でき ると考え選任しております。	グループ会社の管理部門業務に 精通しており、当社の継続的発 展と取締役会の意思決定機能 や監督機能の強化が期待でき ると考え選任しております。

# 会社情報

創立	1960年9月16日
資本金	6,200万円
従業員数	56名（内シニア3名、臨時1名、パート1名） 男性51名、女性5名（2024年3月現在）
ネットワーク	[グループ会社] ■昭和化工株式会社 本社工場 大阪府吹田市 東京支店 東京都墨田区 ■SKI Showa Kako India Pvt. Ltd. ■SKB Showa Kako do Brasil Ltda. ■村上給食株式会社 大阪府東大阪市 ■有限会社ワイン工房あいづ 福島県耶麻郡猪苗代町 ■サツマ化工株式会社 鹿児島県南さつま市

## Showa Kako Group

